



## 【特別支援学校のセンター的機能】

### ～しろがね特別支援学校による地域支援～

特別支援学校のセンター的機能として、専門アドバイザーが中心となり、前橋市・渋川市・吉岡町・榛東村の小学校・中学校・高等学校・幼稚園・保育園を訪問したり、保護者の悩みを聞いたりして、発達気になる子ども達についての継続的な支援を行っています。

### 昨年度の相談依頼の件数(外部支援)

対象	幼稚園 保育園	小学校	中学校	高等学校	その他	計
件数	212件	474件	52件	11件	8件	757件

(その他は関係機関からの相談および研修の講師依頼)



専門アドバイザーの仕事を紹介します。

障害の有無にかかわらず、学校生活や日常生活の中で、困難を抱えているお子さんはたくさんいます。そのお子さんにぴったり合った支援方法を見つけ、提供することで、スムーズに学校生活を送れるようになります。

小学校高学年のA君は、図工の作品や国語の作文の内容を決められず「やらない」と言ったり、少し色塗りを間違えただけで新しい画用紙を要求したりと、時間内に学習が終わらず、いつもふてくされていました。

しかし、課題作文では想像力をふくらまして、素晴らしい内容の作文を書くことができます。担任はA君の力を発揮させるためにアイデアをいくつか出します。すると、A君は「どれも嫌」と答えます。担任も慣れたもので、「先生は案を出したのだから、嫌なら自分で考えなさい」と放っておくと、案の中から1つを

選び、その後は素晴らしい発想力で、何を作るか、どんな内容を書くかを教師に伝えます。

図工では、発想がとても豊かですが、作業が伴わず、塗った絵の具の色が想像と違うと、「間違っただ」と諦めてしまいます。すると、担任は絵の具を混ぜ合わせ、新たな色を作って示します。しぶしぶ塗り始めたA君に、担任はすかさず「良い色になったね」と声を掛けると、「思い描いた色になった」と満足して答えます。

A君に必要な支援とは何でしょうか。

まず、「無から生み出すことは難しい」ということです。ある程度の枠組みを決めてあげれば、A君は知的に高く、様々なアイデアを出すことができます。

次に必要なのは、「間違えてもやり直しがきく」ということです。「0か100」「成功か失敗か」の2つの選択肢しかないA君は失敗が苦手です。こんなA君には、体験を通して、やり直しができることを知らせる必要があります。

A君は知的に高いお子さんなので、支援をするときに、格言のように「間違えてもたいしたことはない。工夫すればやり直しができる」と教えると効果的です。

私たち教師はよかれと思って、子どもにあわせた様々な支援をしています。しかし、子どもに趣旨説明なしの支援は、子どもが本来持っている潜在能力を引き出せません。

子どもがいずれは自分で使えるような支援を提供していきたいですね。

日頃から、本校のセンター的機能の御理解と御協力をありがとうございます。障害の有無にかかわらず、子どもの実態把握・指導内容・指導方法について悩んでいることがありましたら、お気軽に御相談ください。

お待ちしております。



群馬県立しろがね特別支援学校

専門アドバイザー 尾岸 純子

電話 027-268-6111

FAX 027-268-6113

mail shirogane-snes01@edu-g.gsn.ed.jp